

平成28年度、29年度の 連系線の運用容量の値

平成28年 3月10日

1. 平成28年度の連系線の運用容量（平日：昼間帯）

(万kW) 2

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線注1)	東北向	66(④)	65(④)	67(④)	70(④)	61(④)	66(④)	65(④)	67(④)	71(④)	79(④)	76(④)	67(④)
	東京向	340(①)	340(①)	345(①)	360(①)	485(①)	470(①) 【490(①)】	【343(②)】	383(②) 【235(①)】	470(①)	475(①) 【380(①)】	【355(①)】	【375(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線注2)	中部向	250(④) 【33(④)】	250(④) 【31(④)】	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)
	関西向	166(④) 【55(④)】	161(④) 【53(④)】	171(④)	182(④)	192(④)	前半181(④) 後半167(④)	162(④)	前半168(④) 後半180(④)	194(④)	201(④)	191(④)	前半190(④) 後半167(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(④)	130(④) 【74】	130(④) 【74】	130(④)	130(④)	130(④) 【74】	130(④)	130(④) 【84】	130(④)	130(④)	130(④)	130(④) 【74】
	関西向	162(②)	162(②) 【704】	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②) 【704】	162(②)	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②) 【704】
関西中国間連系線注2)	関西向	390(③) 【305(③)】	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	405(③)	405(③)	前半405(③) 【370(③)】 後半390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③) 【329(①)】	405(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【26(④)】	120(①) 【25(④)】	120(①) 【26(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【26(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【26(④)】
中国九州間連系線注2)	中国向	【157(④)】	233(④) 【101(④)】	241(④)	251(④)	253(④)	前半253(④) 後半236(④)	231(④)	前半237(④) 【158(④)】 後半252(④)	263(④)	278(①)	266(④)	前半264(④) 後半237(④)
	九州向	46(④)	46(④)	48(④)	51(④)	53(④)	前半52(④) 後半47(④)	45(④)	前半47(④) 後半49(④)	53(④)	52(④)	51(④)	前半50(④) 後半47(④)

() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。 【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 空容量最小時の運用容量を記載

注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

2. 平成28年度の連系線の運用容量（平日：夜間帯）

(万kW) 3

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線注1)	東北向	57(④)	54(④)	55(④)	57(④)	50(④)	54(④)	53(④)	56(④)	62(④)	72(④)	69(④)	61(④)
	東京向	300(①)	325(①)	340(①)	345(①)	520(①)	490(①) 【495(①)】	【343(②)】	408(②) 【235(①)】	540(①)	490(①) 【400(①)】	【420(③)】	【395(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①) 【110(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線注2)	中部向	200(④) 【24(④)】	200(④) 【21(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	142(④) 【43(④)】	131(④) 【39(④)】	138(④)	145(④)	153(④)	前半 150(④) 後半 135(④)	129(④)	前半 138(④) 後半 151(④)	162(④)	172(④)	161(④)	前半 166(④) 後半 147(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④)	60(④) 【34】	60(④) 【44】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④) 【54】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	162(②)	162(②) 【704】	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)
関西中国間連系線注2)	関西向	390(③)	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)	390(③)	390(③) 【329(①)】	405(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【24(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線注2)	中国向	【157(④)】	200(④) 【101(④)】	202(④)	208(④)	211(④)	前半 215(④) 後半 201(④)	196(④)	前半 202(④) 【158(④)】 後半 217(④)	230(④)	238(④)	236(④)	前半 233(④) 後半 214(④)
	九州向	41(④)	40(④)	41(④)	43(④)	44(④)	前半 42(④) 後半 40(④)	39(④)	前半 40(④) 後半 43(④)	45(④)	46(④)	45(④)	前半 45(④) 後半 41(④)



() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。 【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。
 注1) 空容量最小時の運用容量を記載
 注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

3. 平成28年度の連系線の運用容量（休日：昼間帯）

(万kW) 4

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線注1)	東北向	58(④)	56(④)	61(④)	64(④)	60(④)	60(④)	57(④)	61(④)	65(④)	62(④)	71(④)	63(④)
	東京向	340(①)	340(①)	345(①)	360(①)	485(①)	470(①) 【490(①)】	【343(②)】	505(①) 【235(①)】	470(①)	475(①) 【380(①)】	【355(①)】	【375(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【82(③)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線注2)	中部向	200(④) 【19(④)】	200(④) 【16(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	130(④) 【35(④)】	129(④) 【31(④)】	136(④)	151(④)	160(④)	前半 148(④) 後半 135(④)	128(④)	前半 138(④) 後半 145(④)	163(④)	170(④)	157(④)	前半 154(④) 後半 139(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④)	60(④) 【34】	60(④) 【44】	60(④)	60(④)	60(④) 【44】	60(④)	60(④) 【44】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④) 【44】
	関西向	162(②)	162(②) 【704】	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②) 【704】	162(②)	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②) 【704】
関西中国間連系線注2)	関西向	390(③)	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	405(③)	405(③)	前半405(③) 【370(③)】 後半390(③) 【278(①)】	390(③) 【329(①)】	390(③) 【329(①)】	405(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【23(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①) 【22(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線注2)	中国向	【101(④)】	184(④) 【101(④)】	193(④)	209(④)	216(④)	前半 209(④) 後半 191(④)	187(④)	前半 194(④) 【158(④)】 後半 205(④)	221(④)	227(④)	220(④)	前半 216(④) 後半 200(④)
	九州向	40(④)	38(④)	41(④)	45(④)	49(④)	前半 44(④) 後半 42(④)	39(④)	前半 42(④) 後半 42(④)	47(④)	46(④)	44(④)	前半 44(④) 後半 40(④)

() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。 【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 空容量最小時の運用容量を記載

注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

4. 平成28年度の連系線の運用容量（休日：夜間帯）

(万kW) 5

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線注1)	東北向	54(④)	52(④)	55(④)	56(④)	52(④)	54(④)	52(④)	55(④)	64(④)	64(④)	69(④)	61(④)
	東京向	300(①)	325(①)	340(①)	345(①)	520(①)	490(①) 【495(①)】	【343(②)】	545(①) 【235(①)】	540(①)	490(①) 【400(①)】	【420(③)】	【395(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①) 【82(③)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線注2)	中部向	200(④) 【15(④)】	200(④) 【12(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	125(④) 【30(④)】	122(④) 【26(④)】	125(④)	129(④)	138(④)	前半130(④) 後半123(④)	118(④)	前半125(④) 後半136(④)	146(④)	161(④)	151(④)	前半146(④) 後半131(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④)	60(④) 【34】	60(④) 【34】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④) 【44】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	162(②)	162(②) 【704】	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②) 【704】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)
関西中国間連系線注2)	関西向	390(③)	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)	390(③)	390(③) 【329(①)】	405(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①) 【22(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線注2)	中国向	【101(④)】	174(④) 【101(④)】	179(④)	185(④)	193(④)	前半187(④) 後半178(④)	174(④)	前半182(④) 【158(④)】 後半195(④)	206(④)	209(④)	209(④)	前半201(④) 後半185(④)
	九州向	37(④)	36(④)	38(④)	40(④)	43(④)	前半40(④) 後半38(④)	36(④)	前半37(④) 後半40(④)	42(④)	45(④)	42(④)	前半42(④) 後半39(④)



() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。 【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。
 注1) 空容量最小時の運用容量を記載
 注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

5. 平成29年度の連系線の運用容量（平日：昼間帯）

(万kW) 6

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線注1)	東北向	67(④)	64(④)	66(④)	69(④)	62(④)	67(④)	66(④)	68(④)	72(④)	80(④)	77(④)	68(④)
	東京向	443(②) 【263(②)】	443(②) 【423(②)】	480(①) 【470(①)】	475(①)	490(①)	390(①)	385(①)	395(①)	380(①)	420(①)	505(①)	460(①) 【405(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線注2)	中部向	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)	250(④)
	関西向	166(④)	162(④)	173(④)	183(④)	192(④)	前半 182(④) 後半 168(④)	163(④)	前半 169(④) 後半 181(④)	195(④)	202(④)	192(④)	前半 190(④) 後半 168(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	130(④) 【7④】	130(④) 【7④】	130(④) 【7④】	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)	130(④)
	関西向	162(②) 【50④】	162(②) 【50④】	162(②) 【50④】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)
関西中国間連系線注2)	関西向	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 【329(①)】 後半390(③)	390(③) 【305(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【26(④)】	120(①) 【25(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線注2)	中国向	231(④)	234(④) 【101(④)】	241(④)	252(④)	254(④)	前半 253(④) 後半 237(④)	232(④)	前半 238(④) 後半 252(④)	264(④)	278(①)	267(④)	前半 265(④) 後半 237(④)
	九州向	46(④)	46(④)	48(④)	51(④)	54(④)	前半 52(④) 後半 48(④)	45(④)	前半 47(④) 後半 49(④)	53(④)	52(④)	51(④)	前半 51(④) 後半 47(④)



() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。

【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 空容量最小時の運用容量を記載

注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

6. 平成29年度の連系線の運用容量（平日：夜間帯）

(万kW) 7

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【0(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線	東北向	58(④)	52(④)	54(④)	56(④)	51(④)	54(④)	54(④)	56(④)	63(④)	73(④)	70(④)	62(④)
	東京向	423(②) 【313(②)】	503(②) 【428(②)】	505(①) 【490(①)】	520(①)	540(①)	415(①)	395(①)	435(①)	420(①)	395(①)	505(①)	435(①) 【390(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)
	中部向	120(①) 【90(①)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)
中部関西間連系線 注2)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	143(④)	132(④)	139(④)	145(④)	153(④)	前半 151(④) 後半 136(④)	129(④)	前半 139(④) 後半 151(④)	163(④)	173(④)	162(④)	前半 166(④) 後半 148(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) 【5(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④) 【4(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	162(②) 【50(④)】	162(②) 【50(④)】	162(②) 【50(④)】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)
関西中国間連系線 注2)	関西向	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	前半 405(③) 後半 390(③)	390(③)	390(③)	405(③)	405(③)	405(③)	前半 405(③) 後半 390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【24(④)】	120(①) 【23(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線 注2)	中国向	209(④)	201(④) 【101(④)】	203(④)	209(④)	212(④)	前半 216(④) 後半 201(④)	197(④)	前半 203(④) 後半 218(④)	231(④)	239(④)	236(④)	前半 234(④) 後半 215(④)
	九州向	41(④)	40(④)	41(④)	43(④)	44(④)	前半 42(④) 後半 40(④)	39(④)	前半 40(④) 後半 43(④)	46(④)	46(④)	45(④)	前半 45(④) 後半 41(④)



() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。

【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 空容量最小時の運用容量を記載

注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

7. 平成29年度の連系線の運用容量（休日：昼間帯）

(万kW) 8

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線注1)	東北向	59(④)	55(④)	59(④)	62(④)	61(④)	61(④)	58(④)	62(④)	66(④)	63(④)	72(④)	64(④)
	東京向	443(②) 【263(②)】	438(②) 【423(②)】	460(①)	475(①)	490(①)	390(①)	385(①)	380(①)	380(①)	420(①)	505(①)	460(①) 【405(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
	中部向	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①) 【90(①)】
中部関西間連系線注2)	中部向	200(④) 【19(④)】	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	131(④) 【35(④)】	130(④)	136(④)	151(④)	161(④)	前半149(④) 後半135(④)	129(④)	前半139(④) 後半146(④)	163(④)	170(④)	157(④)	前半155(④) 後半140(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) 【5(④)】	60(④) 【2(④)】	60(④) 【4(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	162(②) 【50(④)】	162(②) 【50(④)】	162(②) 【50(④)】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)
関西中国間連系線注2)	関西向	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 【329(①)】 後半390(③)	390(③) 【370(③)】	390(③)	405(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【23(④)】	120(①) 【22(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線注2)	中国向	186(④)	184(④) 【157(④)】	194(④)	209(④)	217(④)	前半210(④) 後半192(④)	187(④)	前半194(④) 後半206(④)	221(④)	228(④)	221(④)	前半217(④) 後半200(④)
	九州向	40(④)	38(④)	41(④)	46(④)	49(④)	前半44(④) 後半42(④)	39(④)	前半42(④) 後半42(④)	47(④)	46(④)	44(④)	前半44(④) 後半40(④)



()内の数字は、運用容量決定要因(①熱容量等、②同期安定性、③電圧安定性、④周波数維持)を示す。 【 】内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 空容量最小時の運用容量を記載

注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

8. 平成29年度の連系線の運用容量（休日：夜間帯）

(万kW) 9

地域間連系線名称	潮流向	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
北海道本州間連系設備	北海道向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
	東北向	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①) 【30(①)】	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)	60(①)
東北東京間連系線注1)	東北向	55(④)	50(④)	54(④)	55(④)	52(④)	55(④)	53(④)	56(④)	65(④)	65(④)	70(④)	62(④)
	東京向	433(②) 【313(②)】	408(②) 【428(②)】	480(①)	520(①)	540(①)	415(①)	395(①)	435(①)	420(①)	395(①)	505(①)	485(①) 【390(①)】
東京中部間連系設備 (新信濃、佐久間、東清水 周波数変換設備)	東京向	120(①) 【60(③)】	120(①) 【60(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
	中部向	120(①)	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①) 【60(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①) 【90(①)】	120(①)	120(①)	120(①)
中部関西間連系線注2)	中部向	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)	200(④)
	関西向	125(④)	122(④)	126(④)	129(④)	139(④)	前半131(④) 後半124(④)	118(④)	前半125(④) 後半137(④)	147(④)	162(④)	152(④)	前半146(④) 後半132(④)
中部北陸間連系設備	北陸向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
	中部向	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①) 【0(①)】	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)	30(①)
北陸関西間連系線	北陸向	60(④) 【4(④)】	60(④) 【2(④)】	60(④) 【3(④)】	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)	60(④)
	関西向	162(②) 【50(④)】	162(②) 【50(④)】	162(②) 【50(④)】	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)	162(②)
関西中国間連系線注2)	関西向	390(③) 【278(①)】	390(③) 【278(①)】	390(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)	390(③)	390(③)	405(③)	405(③)	405(③)	前半405(③) 後半390(③)
	中国向	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)	278(①)
関西四国間連系設備	関西向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
	四国向	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①) 【70(①)】	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①)	140(①) 【70(①)】
中国四国間連系線	中国向	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
	四国向	120(①) 【22(④)】	120(①) 【21(④)】	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)	120(①)
中国九州間連系線注2)	中国向	177(④)	175(④) 【157(④)】	179(④)	186(④)	193(④)	前半188(④) 後半178(④)	174(④)	前半182(④) 後半195(④)	206(④)	210(④)	210(④)	前半201(④) 後半186(④)
	九州向	37(④)	37(④)	38(④)	40(④)	43(④)	前半40(④) 後半38(④)	36(④)	前半37(④) 後半40(④)	42(④)	46(④)	42(④)	前半42(④) 後半39(④)



() 内の数字は、運用容量決定要因 (①熱容量等, ②同期安定性, ③電圧安定性, ④周波数維持) を示す。 【 】 内の数字は、作業時の運用容量を示す。

注1) 空容量最小時の運用容量を記載

注2) 9月、11月、3月における「前半」：15日まで、「後半」：16日以降

9. 全国系統の概念図

平成28年度（8月平日昼間帯）における運用容量算定結果

※各エリア内数値は、平成28年度送電端最大3日平均電力予想（H3）を表す。

